

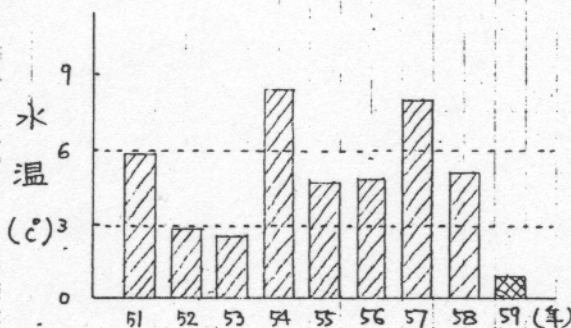
内水試  
かわら版  
59号

エビは

どうなったか？

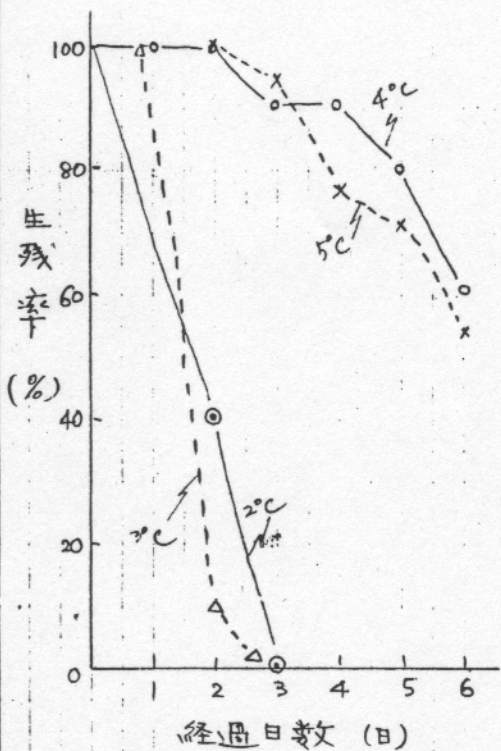
今年の春は、エビ、ゴロイ、サザミが全く獲れず、大変な年でした。不漁の原因については、現在も引き続き調査中ですが、今回はエビについて判ったことを報告します。今年の冬、特に二月は気温が低く、従って水温も異常に低く推移しました。下の図は、過去九年

2月の湖心水温



の二月の水温を示したものです。エビの姿がみえなくなつた時期などから、この春の低水温が原因ではないかと「かわら版54号」で書きました。下の図は、水温別にエビのへい死状態を試験したものです。

水温とエビのへい死



水温が二度及び三度では、三日後には全て死んでしまいます。霞ヶ浦に氷が張ったことや、湖心水温が二度以下になっていて、等かうすると十分考えられることです。しかし、夏になってエビは獲れ始め、今では例年と同じ状態のようです。

エビの産卵盛期は、七月から八月中旬までの期間四五回産卵します。そして、産卵期間の水温が高いと産卵数が多くなります。エビが回復したのは、夏の高温などによって、卵からの歩留りが良好だった為と考えています。来春のエビ漁については、異常気象でなければ、平年並みと予想しています。

